

都市間交流に関する提言書

平成31年3月25日

松本市議会

目 次

- | | | |
|---|-----------------------------|-----|
| 1 | はじめに | P 1 |
| 2 | 調査研究の経過 | P 1 |
| 3 | 都市間交流の現状 | P 2 |
| 4 | 都市間交流の課題 | P 4 |
| 5 | 今後の都市間交流のあり方に係る提言 | P 8 |
| 6 | おわりに | P 8 |
| ※ | 国内交流都市位置図 | P 9 |

1 はじめに

本市における国内の都市間交流は、姉妹都市である藤沢市、姫路市、高山市。交流都市の協定を締結している金沢市、札幌市、鹿児島市。交流協定を締結した都市以外の交流都市として、合併地区の関係で、三重県御浜町（梓川地区）、静岡県松崎町（安曇地区）、神奈川県湯河原町（奈川地区）、三重県相模町（四賀地区）のほか、松本―大阪線が運航されている大阪府豊中市、開智学校と姉妹館提携の開明学校が所在する愛媛県西予市、福岡空港の利用圏域の「九州戦略」の関係都市などがあり、多岐にわたる。

都市間の交流が行われることは、それぞれの地域・文化に触れることで共通の理解が生まれ、人的な交流によって観光面の活性化が期待される。また、こうした事業が継続していくことで信頼関係が深まり、様々な面で都市間相互に有益である。

姉妹都市の交流は昭和36年からの藤沢市を筆頭に半世紀を超える長い交流の歴史がある一方、近年はいわゆる「超広域観光ビジット3」や「北陸・飛騨・信州3つ星街道」等と位置付け、政策的に交流を図っている都市が増加しているが、こうした都市間交流について、これまで議会として検証してこなかった。

そこで、松本市議会としては新たな都市間交流の潮流を踏まえ、今後の国内の都市間交流のあり方はいかにあるべきか、所管の総務委員会が調査・研究を進めることとした。

なお、海外の都市間交流については、そのあり方を調査研究し方向性を出すことは、時間的また領域的に課題があることから、今回の調査・研究には含めないこととした。

2 調査研究の経過

- 平成30年 5月24日 所管の各部概要説明、同管内視察を経て総務委員会が調査・研究テーマを「都市間交流について」に決定
- 8月 2日 調査・研究テーマに基づく行政視察 鹿児島市（鹿児島市・松本市 文化・観光交流協定について）
- 29日 交流協定都市議会との交流 札幌市（議会運営委員会の行政視察に併せ、札幌市観光議員連盟との交流会）
- 10月15日 政策部（政策課、都市交流課）との懇談
- 11月20日 文化スポーツ部（文化振興課、国際音楽祭推進課、スポーツ推進課）との懇談

3 都市間交流の現状

(1) 姉妹都市

ア 藤沢市（昭和36年7月29日提携）

昭和35年に始まった、海のない松本市と山に憧れる藤沢市の市民が、お互いのまち（観光地）を訪問して交流を図る「海と山との市民交流会」がきっかけとなり、姉妹都市提携した。

昭和35年から続く市民交流は、半世紀を超えた現在でも続いており、毎年、両市民が海（藤沢市）と山（松本市）へ相互訪問を行っている。

また、市議会も議員任期中1度、相互に交流を行っている。

イ 姫路市（昭和41年11月17日提携）

天守閣が国宝に指定されている姫路城と松本城が縁で、姉妹都市提携した。

中学生や市民が、合宿生活やスポーツを通じて、毎年交流を続けている。互いの市を行き来し、お互いの文化に触れながら、姉妹都市との親交を深めている。

また、市議会も毎年、相互に交流を行っている。

ウ 高山市（昭和46年11月1日提携）

第1次府県統合（明治4年11月20日布告）により誕生した筑摩県に属していたことが縁で、姉妹都市提携した。越中から飛騨を通り信州までの約200キロメートルの街道を通して飛騨や信州の年越しの食卓に並ぶ「ぶり」が運ばれてきた歴史がある。

現在、松本・高山・金沢・白川郷国際観光ルートとして、年間多くの外国人観光客が訪れる飛騨高山と兼六園に代表される観光文化都市金沢、合掌造りで知られる世界文化遺産白川郷と連携し、外国人観光客の誘致に取り組んでいる。

また、市議会も議員任期中1度、相互に交流を行っている。

(2) 国内交流都市

ア 金沢市（文化・観光交流都市協定 平成20年7月16日提携）

城下町としての歴史と伝統に育まれた両市の誇る薫り高い文化を通じた交流を促進し、さらに東海北陸自動車道の全線開通を機に、これまで以上に相互の協力をより強固なものとして、両市の特色を活かしながら国内外からの一層の誘客を図ることを目的に交流都市協定を締結した。

イ 札幌市（観光・文化交流都市協定 平成22年9月6日提携）

札幌市で開催される「パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）」、松本市で開催される「セイジ・オザワ松本フェスティバル（OMF）」をはじめ、両市は薫り高い文化や恵まれた自然環境など観光都市としての魅力を有している。

空路の札幌－松本線のさらなる充実を契機とした市民等の交流を一層促進することにより、両市の交流人口の増大を図り、さらに産業・経済が発展していくことを目的に交流都市協定を締結した。

ウ 鹿児島市（文化・観光交流協定：平成24年9月16日提携）

九州新幹線鹿児島ルートの新線開通を契機に、城下町としての歴史と恵まれた自然環境を有する両市が、新幹線と空路の福岡－松本線を活用し、文化・観光面を中心とした交流を推進することで、交流人口の増加を図るとともに、両市の文化振興と地域経済の活性化に寄与することを目的に交流協定を締結した。

(3) 旧合併地区交流都市

ア 三重県御浜町（平成5年9月16日提携）

「リンゴの実る梓川」と「年中みかんがとれるまち紀州御浜町」は、共に果物の生産と地域経済の基盤である豊かな自然を守り育てながら、幅広い交流により相互の理解と信頼をもとに、友好親善を深めることが極めて有意義であると確信し、友好親善提携を締結した。

イ 静岡県松崎町（昭和56年10月24日提携）

「花とロマンのまち松崎町」と「日本アルプスのむら安曇村」は、教育、文化、産業、経済等の交流により、相互の理解と親善友好を深め地域社会の発展と振興に寄与するため、姉妹都市締結を行った。

ウ 神奈川県湯河原町（平成10年3月30日提携）

「風光明媚な湯河原町」と「山紫水明の地奈川村」は、豊かな自然環境、温泉という共通の資源に恵まれており、両住民のふれあいにより教育・文化・経済の交流を深め、相互の理解と親善を図り、その発展に寄与することを確認し友好親善提携を締結した。

エ 三重県鳥羽市相差町

平成4年に「くじら」が共通の話題から、経済・観光交流を開始した。平成16年までは行政が、以降は民間が交流事業を実施している。なお、交流当初から友好提携は行っていない。

(4) その他の交流都市

ア 大阪府豊中市

平成26年8月に松本－大阪線が運航を再開（夏期季節便1日1往復）したことにより、伊丹空港がある豊中市と利用促進に係る相互連携を確認した。

イ 愛媛県西予市

昭和62年10月に重要文化財開明学校と旧開智学校が姉妹館提携を締結し、以降相互に中学生派遣事業を実施している。

ウ 「九州戦略」関係都市（宗像市、福津市、長崎市、熊本市、八女市）

福岡空港の利用圏域であることから、RKB毎日放送の赤司観光大使を中心に九州エリアとの交流促進、観光PRを展開している。

4 都市間交流の課題

(1) 政策部関係

ア 現状の分析と課題

- (ア) 文化芸術、教育、観光等における行政間の交流事業だけでなく、市民レベルの交流が中心となるよう幅広い分野へ事業を展開するとともに、各都市と連携し、お互いの市民に対して、広報、ホームページ等を活用し、都市間交流等のPR、交流事業への参加等の周知により、効果的に交流人口の増加・拡大につなげていく必要がある。
- (イ) 8月に文化・観光交流協定についての行政視察で鹿児島市を訪れた際や議会運営委員会による行政視察の際の交流会で訪れた札幌市議会においても、観光戦略や議会間交流に対する考え方など都市間交流のあり方について、相手方と温度差が見られたことから、協定に対するお互いの考え方を共有していく必要がある。

○鹿児島市への行政視察（平成30年8月2日）



○札幌市観光議員連盟との交流会（平成30年8月29日）



- (ウ) 交流協定を結んでいても首長が交代となったことにより、交流が形骸化してしまうケースもあるため、そうならないように現状の交流を

ベースに、「松本マラソン」など新たなアイテムの活用等、検討が必要である。

- (エ) 金沢市とは、サッカーで松本山雅FCとツェーゲン金沢の試合においてそれぞれがブースを出し合う中で、提携10年のPRができた。同じように全国規模の大会などへ協定都市同士が出場することがあれば、注視しながらお互いのPRにつなげていくことが考えられる。
- (オ) 松本山雅FCはJ1に昇格したことを契機に、これまでの交流都市以外も含めJ1のチームがある都市とのホーム、アウェイ相互の新たな都市間交流のニーズを把握し、活用していく必要がある。
- (カ) 8月に鹿児島市において、札幌市長、鹿児島市長、松本市長による第3回目となる鼎談が開催された。今回の鼎談は、選挙などの日程調整等により、前回から3年後の開催となった。議題とするテーマによって担当課が異なるが、交流をより効果的に促進していくためには、相手方、担当課及び政策課の連携を強化し、定期的開催できないか、検討していく必要がある。

○札幌市・松本市・鹿児島市 3市長鼎談（平成30年8月25日）



- (キ) 合併地区の都市間交流については、現状これまでの経過等の記録の整理が十分されておらず、相手方も合併等で変更となっている部分もあることから、それらの整理と歴史的な経緯等を含めた交流のあり方を共有していくことが必要である。
 - (ク) 交流人口を増加させていくためには、郷土の特産品の販売や食のPRなどについて、双方にアンテナショップ、サテライトスペース、ブースの設置等、相互に訪問してPRに努めるなどどのように各都市の情報を発信し拡げていくか、検討が必要である。
- (2) 文化スポーツ部関係
- ア 現状の分析と課題
- (ア) 松本城世界遺産登録について、当面は暫定一覧表への追加記載を目指し、既に世界遺産となっている姫路城の拡張遺産として、犬山城、松江城を含めた複数の天守群により登録を目指す。暫定一覧表見直しの際、追加記載のためには文化庁へ県・市の共同申請が基本となるた

め、関係県・市による推進体制の整備が必要である。また、世界遺産に登録されている姫路城及び暫定一覧表に記載されている彦根城の関係県、市の協力が不可欠となっている。

また、来年度長野県、登録を目指す犬山城のある愛知県、松江城のある島根県といった関係県とともに推進する体制を整える必要がある。

その他、松本市では、「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会や松本古城会といった市民の会による世界遺産登録に向けた取組みを通じて、市民からの世界遺産登録に向けた機運の醸成を図っているが、ともに調査研究を進めている犬山市、松江市には、そういった会は組織されておらず、課題となっている。

- (イ) OMF特別スクリーンコンサートについては、セイジ・オザワ松本フェスティバルを身近に感じていただき、フェスティバルへの新規来場者の獲得を図るとともに、本市の誘客拡大及び都市間交流の促進につなげる。現在、12都市4カ所ずつ3年サイクルの2クール目となるが、新たな開催都市の発掘などサイクルの見直しやスクリーンコンサートと併せて物産展や観光宣伝を行うなど合同プロモーションの充実が不可欠である。

また、OMF特別スクリーンコンサートは首都圏、中京圏で開催されていないことから、新たな地域での開催が課題となっている。

- (ウ) 松本市・藤沢市マラソン交流事業では、市民ランナー2名を相互派遣し、併せて各市の賞を設け、参加ランナーに対し両市の観光・物産などのPRができています。更なるPRのため、市民ランナーの相互参加を拡大していくことが考えられる。

また、交流都市の松本マラソンへのエントリーは、札幌市11名、高山市34名、姫路市20名、藤沢市31名、金沢市59名、鹿児島市4名、計159名であった。交流都市からのエントリーは歓迎すべきであり、遠方にある交流都市からのエントリーの増加を検討していく必要がある。

- (エ) 松本市・姫路市親善スポーツ交換大会は、昭和57年から本年度36回の交流がある。両市間をバスで移動するため交流の時間が1.5時間程度しか確保できず、観光・文化等で十分な交流ができておらず、課題となっている。

- (オ) 金沢市・松本市スポーツ交流事業では、交流協定に基づき、平成23年から両市で毎年相互に剣道、空手道、バドミントン、バレーボール、卓球、バスケットボールなどを実施している。スポーツ交流としては成果が上がっているが、子ども同士以外のスポーツ交流を推進していく必要がある。

- (カ) 鹿児島市・松本市スポーツ交流事業では、交流協定に基づき、平成25年から毎年交互にサッカー、バレーボール、ソフトテニスなどを実施。遠方であり、夏・冬休み等に日程が限られ、これ以外の時期に交流を図ることが難しい。
- (キ) 民間団体による交流として、藤沢市・松本市定期交換サッカー大会は本年で48回目の開催となる一方、高山市・松本市ソフトバレーボール交歓大会は平成28年度の第17回大会で開催中止となった。民間交流事業に対しては、事業費の2分の1、上限25万円の補助があるが競技団体による交流の継続、事業費支援の検証及び若い世代への周知・拡大が必要と考える。
- (ク) 松本山雅FCホームゲーム「松本市・鹿児島市 文化観光交流都市デー」は、松本市民が鹿児島の観光・文化に直接触れる機会を提供し、松本市の施策等のPRにも寄与していることから、現状、特に課題はない。
- (ケ) 民間のスポーツ交流については、補助金を有効に活用していただき、まずは両市の役員クラスが交流し、継続していけるかどうか。また、現状の補助額は適正なのか検討していく必要がある。
- (3) 課題解決の方向性
- ア 遠方にある交流都市については総じて交流の時間確保が課題であり、そうした課題を踏まえて、十分な日程が確保できるように交通機関、宿泊等も検討していくべきである。
- イ 松本マラソンは、都市間交流の新たなアイテムとして期待が持てる。招待選手の増員など都市間交流にも寄与する松本マラソンのあり方について検討していくべきである。
- ウ 松本山雅FCのJ1昇格による新たな交流が生まれる。都市間交流という位置づけではないものの、ホーム、アウェイにおいてサポーターの交流促進を図り、それぞれの開催都市における街なかでの経済効果が生まれるような対応を今以上に検討すべきである。
- エ 本市ホームページには、交流都市の概要や相手方ホームページが掲載されているが、「超広域観光ビジット3」や「北陸・飛騨・信州3つ星街道」等をより意識できる内容とすることで、結果として交流が促進されるよう本市のホームページの充実を検討すべきである。
- オ OMF特別スクリーンコンサートについては、新たな開催都市として、松本市からの鉄道沿線を意識して新宿、名古屋方面での開催を検討すべきである。
- カ 民間におけるスポーツ交流については、各市の民間団体同士の交流や若い世代への周知・参加を促す仕組みづくりなど、より交流が継続・促進していけるような方策について検討を行い、併せて、それに必要な補

助金を増額すべきである。また、交流を行う際にはお互いの首長等と交流を深める機会を設けるなど、行政の後押しとして適切な支援の検討をお願いしたい。

キ 松本城の世界遺産登録について、姫路城を含む国宝5城等による近世城郭の天守群として登録を目指していることから、犬山市、松江市へは市民団体の設立への働きかけを提案するとともに、2市の同じ志を持つ市民との交流を図り、共同で市民組織を設立するなど登録に向けた活動を協力して行い、それぞれの地域での機運の醸成を図るべきである。

5 今後の都市間交流のあり方に係る提言

都市間においてそれぞれの市民が交流し、両市の間で共通理解を深めることで、観光面の活性化、有事の際の相互応援等、お互いが享受できるメリットは大きい。そのため、都市間交流については基本的に、これまでの交流の経過などを踏まえ継続していくべきものとする。

しかしながら、交流は相手のあることでもあり、担当課が独自で交流を図るというよりは、担当課が協定の趣旨や歴史的経過などの松本市としての基本的な考え方を共有するとともに、首長による会議の開催や相互訪問を重ねるなどにより、お互いにその考え方をしっかり理解した上での交流が図られるべきである。

そうした庁内や相手方との連携を強化することで、相手方も含め、市全体の事業としての継続性を維持し、更に交流を深めながら、発展させることができる。

6 おわりに

都市間交流のあり方を検討するに当たっては相手方を尊重する中、本市だけでその方向性を出すことは困難である。しかしながら、本市としての考えを相手方に理解していただき、より実効ある施策としていかなければならない。

理事者におかれては、本提言を踏まえた都市間交流のあり方を早期に検討いただき、施策へ反映させることにより交流人口の増加ひいては本市の活性化を期待する。

以上

○国内交流都市位置図

